

[15] A

つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

心なしと見ゆる者も、よき一言いふものなり。ある荒夷あらえびすの恐ろしげなるが、かたへに逢ひて、「御子おんこはおはすや」と問ひしに、「一人も持ち侍らず」と答へしかば、「さては、もののあはれは知り給はじ。情なき御心にぞものし給ふらむと、いと恐ろし。子ゆゑにこそ、よろづのあはれは思ひ知らるれ」といひたりし、さもありぬべき事なり。イの道ならでは、^Aかかる者の心に□□ありなむや。ハの心なき者も、子持ちてこそ親の心ざしは思ひ知るなれ。世を捨てたる人のよろづにするすみなるが、[※]なべてほだし^①多かる人の、よろづにへつらひ、望み深きを見て、むげに^B思ひくたすは、^{ひがごと}僻事なり。その人の心になりて思へば、まことに愛し^{かな}からむ親のため妻子のためには、恥をも忘れ盗みもしつべき事なり。されば盗人ぬすびとを戒め、僻事をのみ罪せむよりは、世の人の飢ゑず寒からぬやうに、世をば行はまほしきなり。

人、恒の□□^Cなき時は、恒の心なし。人、極まりて盗みす。世治まらずして凍餒とうだいの苦しみあらば、咎とがの者絶ゆべからず。人を苦しめ法を犯さしめて、それを罪なはむ事、不便ふびんのわざなり。さていかがして人を恵むべきとならば、上の驕り費かみやす所をやめ、民を撫で農を勧めば、下に

〔出題校〕

法政大・法・キャリアデザイン

〔重要語句〕

- 心なし
- かたへ
- おはす
- 侍り
- もののあはれ
- 給ふ
- 情なし
- ものす
- いと
- よろづ
- さ
- かかり
- 心ざし
- 世を捨つ
- なべて
- ほだし
- むげに
- 僻事
- 愛し
- 咎
- 不便なり

利あらむ事、疑ひあるべからず。衣食世の常なる上に、僻事せむ人をぞ、まことの盗人とはいふべき。

○わざ
○いかが

(『徒然草』による)

※ するすみ……身寄りも蓄えないこと。

問一 傍線部 a「し」、b「しか」の活用形を、つぎの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

ア 未然形 イ 連用形 ウ 終止形 エ 連体形 オ 已然形 カ 命令形

a	
b	

問二 傍線部①「なべて」、②「多かる」の品詞を、つぎの中からそれぞれ一つ選び、番号で答えよ。

えよ。

- 1 副詞 2 連体詞 3 動詞 4 形容詞 5 形容動詞 6 助動詞
- 7 助詞 8 感動詞

①	
②	

問三 傍線部A「かかる者」とは誰を指すか、つぎの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 荒夷 イ かたへ ウ 子 エ 親 オ 作者

問四 空欄イ・ロ・ハに当てはまる語の組み合わせとしてもつとも適当なものを、つぎの中から

一つ選び、番号で答えよ

- | | | | |
|---|------|------|------|
| 1 | イ↓恩愛 | ロ↓孝養 | ハ↓慈悲 |
| 2 | イ↓恩愛 | ロ↓慈悲 | ハ↓孝養 |
| 3 | イ↓孝養 | ロ↓恩愛 | ハ↓慈悲 |
| 4 | イ↓孝養 | ロ↓慈悲 | ハ↓恩愛 |
| 5 | イ↓慈悲 | ロ↓恩愛 | ハ↓孝養 |
| 6 | イ↓慈悲 | ロ↓孝養 | ハ↓恩愛 |

問五 傍線部B「思ひくたす」のもつとも適当な解釈を、つぎの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 落ち込む イ 恋い焦がれる ウ 軽蔑する エ 残念がる
オ 自暴自棄になる カ 賞賛する

問六 空欄Cにはあることわざを踏まえた語が入る。その語を、つぎの中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 愛 2 子 3 家 4 食 5 産 6 道

問七 つぎの中から本文に書かれていない内容すべてを選び、記号で答えよ。

- ア 見た目の恐ろしそうな人でも、人情に適ったことを言う。
イ 作者は子をもつてはじめて人情が解せると思っていない。
ウ 肉親のためならば、たとえ盗みをしたとしても許される。
エ 罪を罰するよりも、飢えと寒さをなくす政治をすべきだ。
オ 為政者はおごりをやめ、人民に農業を奨励すべきである。
カ 人の衣食をも騙し取ろうとする人こそが本当の盗人である。

問八 『徒然草』は何世紀に書かれた作品か、つぎの中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 十一世紀
- 2 十二世紀
- 3 十三世紀
- 4 十四世紀
- 5 十五世紀
- 6 十六世紀